

むろ おか こう ぎょう だん ち ない
室岡工業団地内遺跡Ⅳ

福岡県八女市室岡所在遺跡の調査報告書

八女市文化財調査報告書 第88集

2010

八女市教育委員会

序

八女市の西部には九州縦貫自動車道が南北に走り、八女インターチェンジがあります。インターチェンジ周辺の八女市と筑後市には多くの工業団地があり、物流の拠点として整備が進んでいます。

今回の発掘調査は、KDDI株式会社福岡エンジニアリングセンターが無線基地局建設のため建設を計画したところ、建設予定地は周知の埋蔵文化財（室岡工業団地内遺跡）であったため、建設前に発掘調査を実施したものです。発掘調査の実施にあたりましてKDDI株式会社福岡エンジニアリングセンター（センター長 勝山安朗）、三協立山アルミ株式会社九州工場をはじめ、関係各位に終始ご協力いただき、心から感謝いたしております。

平成22年3月31日

八女市教育委員会

教育長 中島 清志

例 言

- 1 本書は八女市教育委員会が福岡市博多区博多駅前1-2-5、KDDI株式会社福岡エンジニアリングセンター（センター長 勝山安朗）の委託を受けて実施した、福岡県八女市室岡字一丁野所在、室岡工業団地内遺跡（第5次調査）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は八女市教育委員会が主体となり実施した。なお、出土した遺物は岩戸山歴史資料館で整理を行い保管している。
- 3 遺構の実測には世界測地系を基準としている。
- 4 遺構の実測は参加者で行い、写真は赤崎が撮影した。
- 5 本書の執筆、編集は赤崎が行った。

本文目次

1 はじめに	1
2 位置と環境	3
3 発掘調査の概要と経過	4
4 遺構と遺物	7
5 まとめ	11

挿図目次

第1図	室岡工業団地内遺跡と周辺の遺跡 [1/25,000]
第2図	室岡工業団地内遺跡発掘前 [東から]
第3図	室岡工業団地内遺跡発掘調査（盛土除去）
第4図	室岡工業団地内遺跡位置図（1～5次調査地点） [1/2,500]
第5図	室岡工業団地内遺跡5次調査地区 [1/400]
第6図	室岡工業団地内遺跡5次調査遺構検出 [北から]
第7図	室岡工業団地内遺跡5次調査遺構配置図 [1/200]

第8図	室岡工業団地内遺跡5次調査全景
第9図	SB01
第10図	ピット
第11図	室岡工業団地内遺跡土層図 [1/60]
第12図	溝（SD01）出土遺物 [1/3]
第13図	溝（SD01）出土遺物

1 はじめに

室岡工業団地内遺跡は福岡県八女市室岡にあり、遺跡は九州縦貫自動車道八女インターチェンジ北側で、現在、三協立山アルミ株式会社九州工場敷地一帯に広がっている。今回の調査地点は敷地内の字一丁野377番地1に所在する。

調査の発端は、KDDI株式会社福岡エンジニアリングセンターが携帯電話基地局の建設工事を計画された事による。敷地内は周知の遺跡であり、工場内の建物建築の際には平成3年度から平成7年度まで4次にわたって発掘調査を実施し、弥生時代から平安時代にかけての大規模な集落が発見されている。このため基地局建設にあたっては両者が協議を重ね、鉄塔建築によって掘削される部分約100㎡の調査を実施する事とし、平成21年6月1日付けで発掘届が提出された。発掘届の提出により平成21年度の事業として調査を実施する事となり、平成21年7月1日付けで「埋蔵文化財発掘・整理調査委託契約書」を締結した。

調査は平成21年7月6日に開始、梅雨のため冠水を繰り返しながら平成21年8月5日、現地での発掘調査は終了した。引き続いて整理と報告書の作成を行った。

平成21年度の調査関係者は次のとおりである。

発掘調査委託

KDDI株式会社福岡エンジニアリングセンター
センター長 勝山安朗

八女市教育委員会

平成21年度（1月31日まで）

教育長	中島清志
社会教育課課長	飯田せつ子
社会教育課参事補佐	江崎邦博
社会教育課文化財係長	赤崎敏男
同係員	中川寿賀子
	大塚恵治

八女市教育委員会

平成21年度（2月1日から）

教育長	中島清志
教育部長	飯田せつ子
文化課課長	井上富雄
文化課文化財係長	赤崎敏男
同主任	中川寿賀子
同係員	大塚恵治
	永田寧
	樋口真弓

2 位置と環境

室岡工業団地内遺跡は、八女市室岡字道添・字野中・字一丁野に所在する遺跡で、平成3年度に1次調査、平成4年度に2次・3次調査、平成7年度に4次調査を実施しており、今回の調査は5次調査にあたる。

遺跡は八女丘陵の脊梁部から派生した洪積台地の南端部にあたり、台地との間を山ノ井川によって寸断されている。台地上には弥生時代前期から後期の室岡遺跡群が拡がっており、山ノ上遺跡、北小路遺跡、亀ノ甲遺跡が知られていたが、最近、国道442号線バイパスの建設に伴って実施された発掘調査で、台地を巡る環濠と環濠内の集落が発見された。

室岡工業団地遺跡からはこれまで4次の調査によって多くの遺構、遺物が発見されている。

第1次調査（平成4年1月―3月）

〔周辺排水路、道路〕

竪穴住居2軒、溝14条、土壇6基（弥生時代後期・古墳時代後期）

第2次調査（平成4年4月―7月）

〔貯水池、道路〕

竪穴住居71軒、掘立柱建物23棟、溝15条、土壇29基、井戸1基、周溝状遺構12基（弥生時代後期・古墳時代前期・後期、歴史時代前半）

第3次調査（平成4年6月―10月）

〔三協アルミ株式会社九州工場第1期工場棟、事務所棟〕

竪穴住居40軒、掘立柱建物14棟、溝18条、土壇22基、柵列1条（弥生時代後期・古墳時代後期、歴史時代前半）

第4次調査（平成7年5月―9月）

〔三協アルミ株式会社九州工場第2期工場棟〕

弥生時代竪穴住居7軒、掘立柱建物9棟、周溝状遺構5基、古墳時代竪穴住居19軒、平安時代竪穴住居3軒、掘立柱建物34棟、溝2条、土壇6基、柵列2条



第2図 室岡工業団地内遺跡発掘前 [東から]

3 発掘調査の概要と経過

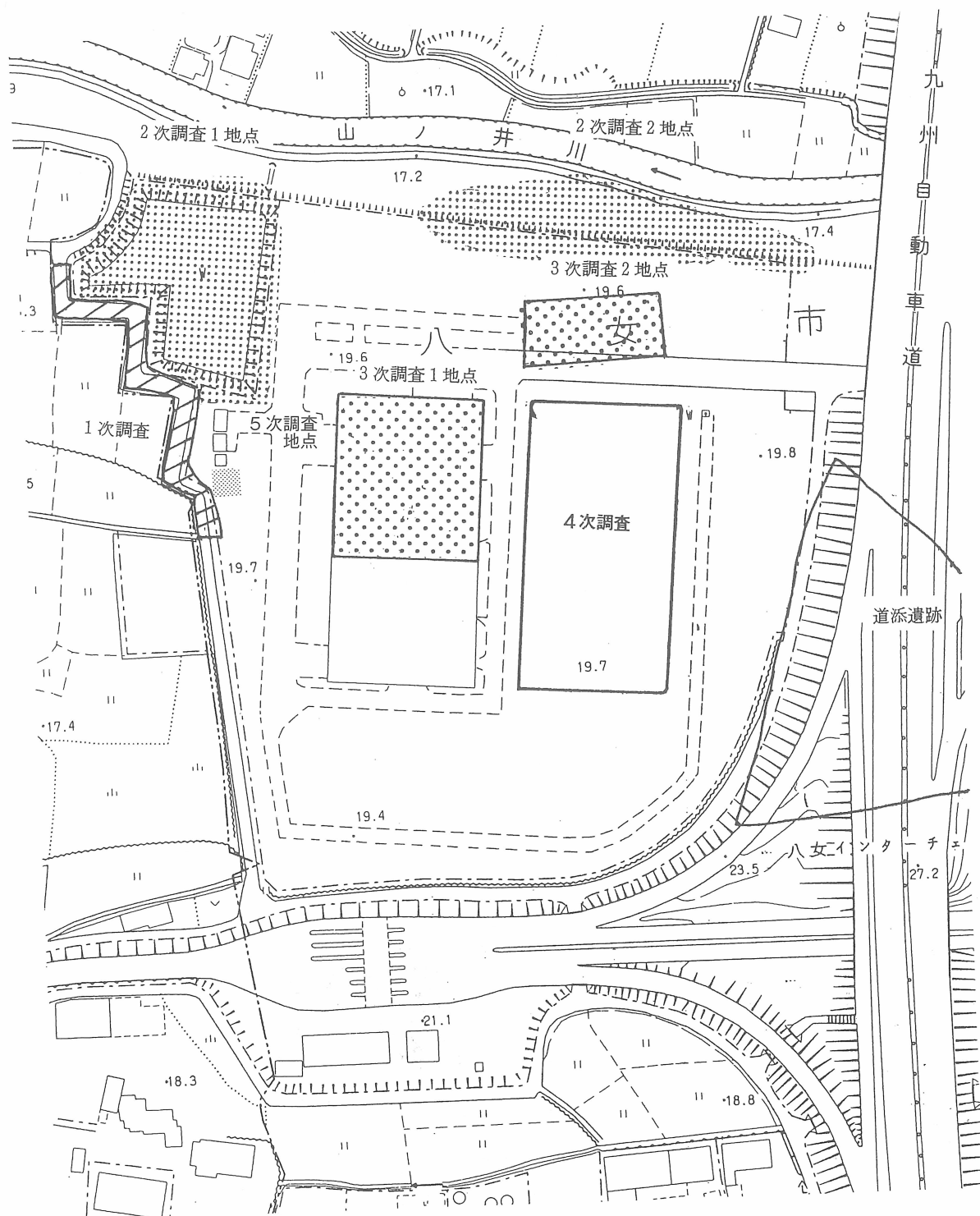
発掘調査は工業団地内西側敷地に建設される無線基地局の内、鉄塔建設によって掘削される部分のみ調査を実施した。

(作業日誌)

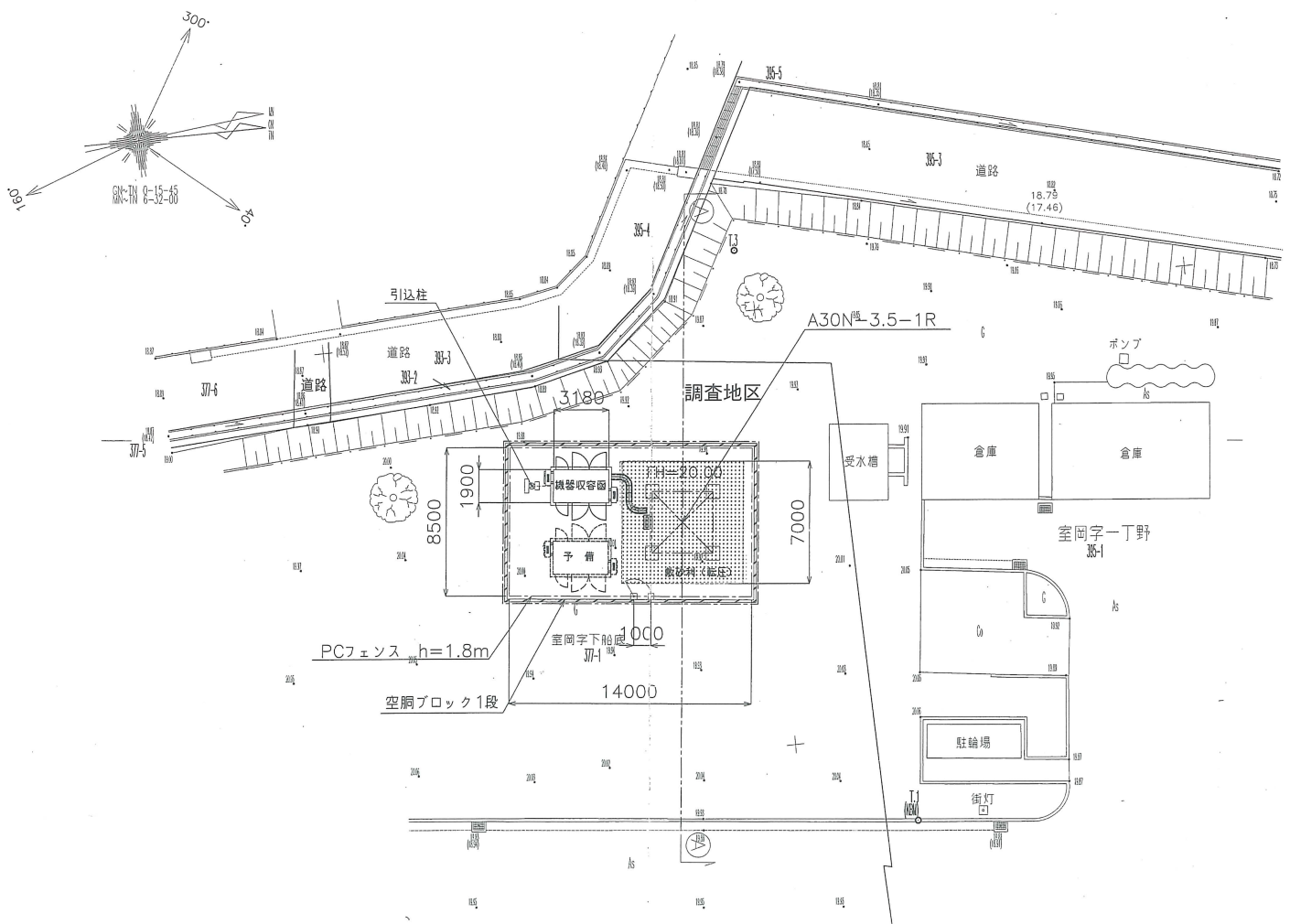
- 平成21年 7月 6日 本日よりユンボ導入。表土、盛土の掘り下げ。
- 10日 盛土の掘り下げ。耕作土の一部を下げ始める。
 - 14日 本日より作業員入り、遺構の検出作業。土壌、柱穴、溝、検出する。
 - 15日 土壌、柱穴、溝の掘り下げを開始する。昼ごろより降雨。
 - 16日 土壌、柱穴、溝の掘り下げが、遺物の出土が少ない。
 - 17日 土壌、柱穴、溝の掘り下げ続ける。基準点、レベルの移動。
 - 23日 前夜来の雨のため調査区は満水状態。周辺の地形測量実施する。
 - 28日 再び水没。排水とヘドロ除去。
 - 30日 昨日の雨のため再び水没。排水とヘドロ除去後、実測。
 - 31日 排水とヘドロ除去後、実測。
- 8月 3日 排水とヘドロ除去後、南壁土層の実測と全体写真撮影準備。
- 4日 全景及び遺構写真撮影。1／100測量開始。
 - 5日 図面点検、器材片づけをして本日で終了する。



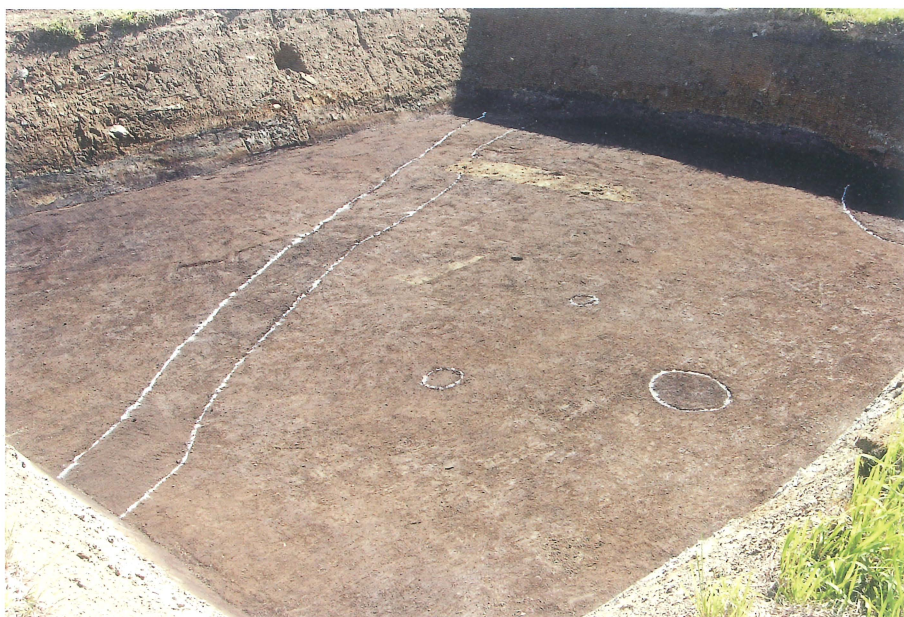
第3図 室岡工業団地内遺跡発掘調査（盛土除去）



第4図 室岡工業団地内遺跡位置図（1～5次調査地点）[1/2,500]



第5図 室岡工業団地内遺跡5次調査地区 [1/400]



第6図
室岡工業団地内遺跡
5次調査遺構検出 [北から]

4 遺構と遺物

鉄塔建設によって削平される部分約100㎡の調査を実施した。当該地は第1次調査を実施した排水路の東側に隣接し、また、2次調査地点の南側約30mの所にあたる。現地表より約1.6m掘り下げ調査を実施したが、発掘調査の結果、歴史時代の竪穴住居1軒、溝1条とピットが発見された。

(1) 遺構と遺物

竪穴住居 (SB) (第6・7・8・9図)

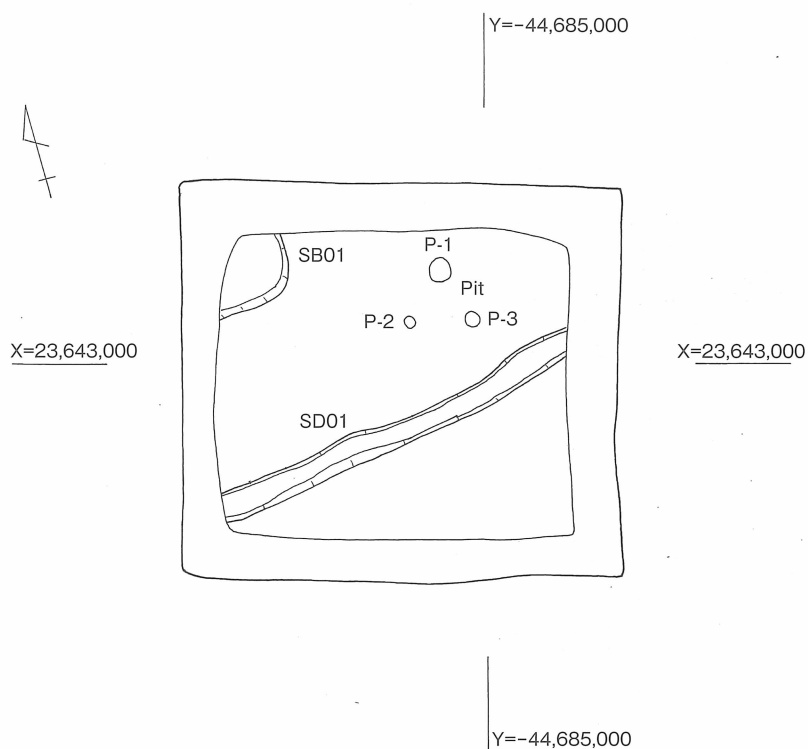
調査区の北東隅でわずかに竪穴住居の一部が発見された。

SB01 (第7・9図)

南北の長さ2.0 + a m、東西の長さ1.6 + a m、ほぼ方形の竪穴住居である。床面まで壁は南側で25cm前後、北側で30cm前後残り、床面は平坦である。内部の堆積土は暗黒色土で、炭化物をやや多く含んでいる。遺物はまったく出土しなかった。

ピット群 (第10図)

調査区の北側に3個のピットが検出された。



P-1 直径60cm、深さ60cmと大きく深いピットで柱穴と考えられるが、建物となるか不明である。遺物は出土していない。

P-2 直径30cm、深さ10cmと小さく浅いピットで柱穴とは考え難い。遺物は出土していない。

P-3 直径40cm、深さ15cmと小さく浅いピットで柱穴とは考え難い。遺物は出土していない。

溝 (SD)

調査区のほぼ中央に、北東から南西方向の溝が1条発見された。

第7図 室岡工業団地内遺跡5次調査遺構配置図 [1/200]

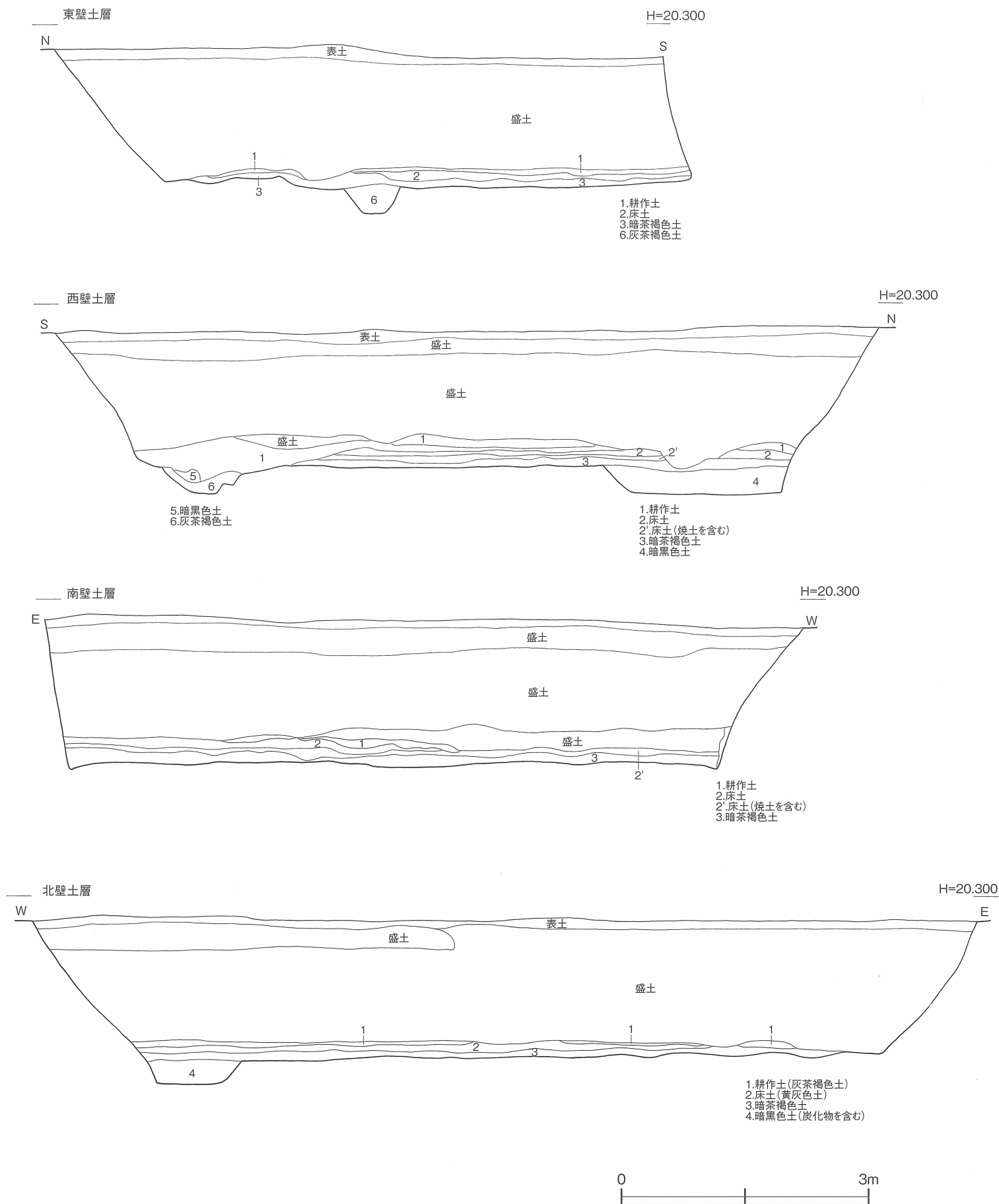


第8図
室岡工業団地内遺跡
5次調査全景

第9図 SB01



第10図 ピット



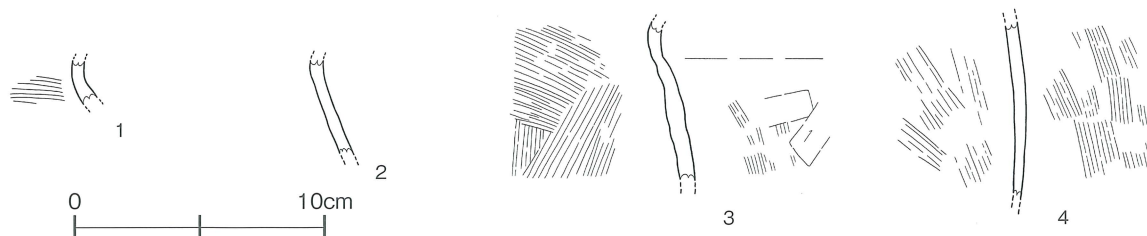
第11図 室岡工業団地内遺跡土層図 [1/60]

SD01 (第7・8図)

溝は北東から南西方向にほぼ直線に延びており、北東側の幅0.65m、深さ20cm（底面標高18.04m）、南西側では幅1.00m、深さ22cm（底面標高18.08m）と溝底はほぼ平坦である。溝内の土層を見ると溝底には薄く灰茶褐色土があり、その上を暗黒色土が堆積しており、水がわずかに流れ、黒色土で一挙に埋没したものとも考えられる。溝内からは弥生時代後期の小片がわずかに出土している。

出土遺物 (第12・13図)

- 1 弥生時代後期の壺の口部片である。内面には荒い刷毛目が施されている。胎土中には1mm以下の砂粒をわずかに含む。焼成は良好で外面茶褐色、内面暗茶褐色を呈している。
- 2 弥生時代後期の壺の口部片である。内外面とも磨耗のため調整は不明。良質の胎土中には雲母をわずかに含む。焼成は良好で内外面とも淡黄白色を呈している。
- 3 弥生時代後期の甕の口縁から胴部にかけての小片である。内外面ともに荒い刷毛目が施されている。胎土中には1～2mm以下の砂粒をわずかに含む。焼成は良好で外面明茶褐色、内面茶褐色を呈している。
- 4 弥生時代後期の甕の胴部片である。内外面には荒い刷毛目が施されている。胎土中には砂粒をやや多く含む。焼成は良好で外面暗茶色、内面暗茶色を呈しており、外面の一部には煤が付着している。



第12図 溝 (SD01) 出土遺物 [1/3]



第13図
溝 (SD01) 出土遺物

5 まとめ

今回の調査は、鉄塔建設に伴って調査を行なったため、わずか約100㎡の範囲での確認にとどまった。しかし、今回調査を実施した地点は室岡工業団地内遺跡の1次調査地区と2次調査地区の中間地点であり、多くの遺構が発見されると予想されたため調査を実施したが、わずかに竪穴住居1軒と溝1条、3個のピットが発見されたにすぎない。

平成3、4年度に実施した1次、2次調査の結果では、調査区の南側を東西に伸びる溝を境に北側には弥生時代後期、古墳時代から奈良時代の集落が集中している。その反面、溝から南側には竪穴住居は無く、わずかに溝と柱穴が検出されたのみで、遺構は希薄になっている。

調査では竪穴住居の一部と、溝が発見されたが、竪穴住居の形態から奈良時代の竈を有する小型の竪穴住居と考えられ、東側に隣接する3次調査地区からは同時期の竪穴住居が多く発見されており、集落群の東端の可能性もある。また、調査区の中央で発見された溝は1次調査で発見されている1号溝、3号溝、4号溝のいずれかに繋がるものと思われ、古墳時代後期か奈良時代の溝と考えられる。

今回の調査の結果、室岡工業団地内遺跡の中心は2次調査地区、3次調査地区、4次調査地区から東側であり、1次調査地区から西側には遺跡は希薄になっていくものと推察される。

「室岡工業団地内遺跡刊行報告書」

- | | | | |
|--------------------|------|-----------------|------|
| 八女市教育委員会「室岡工業団地内遺跡 | I」 | 八女市文化財調査報告書第27集 | 1993 |
| 八女市教育委員会「室岡工業団地内遺跡 | II」 | 八女市文化財調査報告書第31集 | 1994 |
| 八女市教育委員会「室岡工業団地内遺跡 | III」 | 八女市文化財調査報告書第44集 | 1996 |

報 告 書 抄 録

ふ り が な		むろおかこうぎょうだんちないいせき						
書 名		室岡工業団地内遺跡Ⅳ						
副 書 名		福岡県八女市室岡所在遺跡の調査報告書						
巻 次								
シ リ ー ズ 名		八女市文化財調査報告書						
シリーズ番号		第 88 集						
編 著 者 名		赤 崎 敏 男						
編 集 機 関		八女市教育委員会						
所 在 地		834-8585 福岡県八女市本町647 TEL0943-23-1982						
発行年月日		西暦 2010年3月31日						
ふ り が な 所収遺跡名	ふ り が な 所 在 地	コ ー ド		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
むろおかこうぎょうだんちない 室岡工業団地内遺跡	ふくおかけん 福岡県 や め し むろおか 八女市室岡 あざいっちょうの 字一丁野 377番地1			33°12'35"	130°31'25"	090706 ～ 090805	約 100m ²	携帯電話基 地局建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
室岡工業団地内遺跡	集落	弥生 中世	竪穴住居・ピット・溝		弥生式土器			

室岡工業団地内遺跡Ⅳ

八女市文化財調査報告書
第 88 集

平成22年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647

印刷 橋 爪 印 刷
八女市吉田1899-1